

# テラ・スコラが大切に考えていること

## 1. 信濃むつみ高等学校は〈テラ・スコラ〉

「テラ」は地球、「スコラ」はまなびの場。

だから、〈テラ・スコラ〉とは「地球がまなびの場」ということです。

インターネットをまなびのツールにすれば、

自分の部屋はもちろん、街のどこか、地球上のどこかにいても、

自分のスタイルでまなぶことができます。

自由に使える時間があれば、

地球のどこでもまなびの場にするだけだってできるはず。

この地球に生きる存在として、つねにかならず「世界」に開かれ、わたしとあなたが対話する。

〈共に在る〉を考える。

通信制 信濃むつみ高等学校が実現したい目標は、

「地球がまなびの場」=〈テラ・スコラ〉!

そんな信濃むつみ高等学校はテラ・スコラとも呼ばれています。

## 2. 〈テラ・スコラ〉のまなびが目指すもの

信濃むつみ高等学校 = 〈テラ・スコラ〉のまなびは、

単に高等学校卒業資格取得のみを目的とするのではなく、

生徒のみなさんが

自己、他者、社会、自然と向き合い、

自立／自律し、

謙遜で、対話を重んじ、

他者を理解し、自己を表現する、

そのような中で新しい自分と出会い、自分らしい生き方を探求することを目的とし、

また

共に受け入れ合い、共に尊重し合う、〈共に在る〉社会の実現を目的としています。

### 3. 〈テラ・スコラ〉を実現するための5つのこと

信濃むつみ高等学校は、〈テラ・スコラ〉を実現するために、以下の5つのことを提案します。

#### (1) 〈テラ・スコラ〉を選ぶすべての人と共にまなびます。

〈テラ・スコラ〉は、すべての人は尊い存在であると考えます。

いじめ、差別、偏見、ヘイト・・・、テラ・スコラはあらゆる「排除」に抗います。

すべての人が共にまなべるように、さまざまな人たちと対話しながら、

「まなびにくさ」を改善し続けていきます。

〈テラ・スコラ〉に共感し、信濃むつみ高等学校を選ぶすべての人たちと一っしょに

まなび合う環境を、生徒、保護者、スタッフ、地域の人たちと共に創り上げていきます。

#### (2) この世界の多様性についてまなびます。

人種、国籍、民族、コミュニティ、肌のいろ、ことば、性別、身体的特徴、趣味・嗜好、ファッションなどこの地球上にはさまざまな違いを持つ人たちがいます。

〈テラ・スコラ〉が考える「多様性」とは、そういった「違い」にあるのではなく、

すべての人はそれぞれ「自分らしさ」を持った異なる存在であると認めることにあります。

わたしだけが「自分らしく」生きるのではなく、すべての人が自分らしく生きられる、

〈共に在る〉社会を考え、まなびます。

#### (3) 自己、他者、社会、自然と向き合うために知識を得、体験と経験をし、知恵を身につけます。

テラ・スコラには、自己、他者、社会、自然と向き合うために、さまざまなまなびのメニューがあります。

どこの高校にもある、国語、数学、理科、英語・・・、体育や芸術・・・などの「科目」。

「イベント」と呼ばれるさまざまな学校行事や、「クラブや生徒会」など、生徒みなさんが自分たちで作り上げる活動。

さらに、「ゼミ」というテラ・スコラ独自のまなびも。科目やイベントとは違う、知らなかった世界との出会い、さまざまな体験と経験、触れたことのない表現、今までの関係性とは異なる交流、他では身につけられない知識や技術、そして基礎・基本となる学び。テラ・スコラのスタッフはもちろん、社会のさまざまなところで活躍している人たちと、共に広げ、深めるもの。

テラ・スコラを活動場所にするものから、県内の各地、時には県外や海外へ出かけていくものまで。数ヶ月間、もしくは1年間の時間をかけて実施するものなどなど。「高等学校」に縛られない、自由でわくわくするまなびです。

小さいけれども、他の図書館ではなかなかお目にかかれない、いろんな本と出会える「図書空間」も、テラ・スコラにはあります。

また、テラ・スコラとは異なる場で、アルバイトやボランティア、スポーツや趣味、旅行などなど、自分スタイルで自分のペースで、いろいろなことに「チャレンジ」できるのも、通信制だからこそ。

これらのまなびのメニューの中に、知識、体験、経験、知恵がちりばめられています。テラ・スコラでは、さまざまな選択肢から、自分の興味や関心を拡げられるまなびを展開します。世界を知るための「知識」。

人が何かにふれ、感じ、想い、考え、伝え、そして、受け容れ合う・・・、そんな、人が生きることの基本である「体験」と「経験」。

そして、先人たちが紡いできた、思想や哲学、古今東西さまざまな人たちの生き方、信仰や宗教、知識、体験、経験、それらを編み上げる「知恵」。

自分だからこそその知恵を身につけて、テラ・スコラを飛び出していこう。

#### **(4) 自分らしく表現する力を養います。**

<テラ・スコラ>が目指す「表現」は、「共に受け容れ合い、共に尊重し合う、〈共に在る〉社会の実現」のために、そして、「他者を理解し、自己を表現する」という「対話」のためにもちいられるものです。

コミュニケーション能力を高めることや、自己表現、自己実現のためだけではありません。「沈黙」も大切な表現のひとつと考えます。

ことば、声、表情、態度、会話、文章、音楽、美術、絵画、演劇、舞踏、数式、料理・・・、表現に正解はありません。

自分らしい表現を見つけ、自分らしく表現する力を養います。

#### **(5) 生き方を含めた進路について対話を重ねます。**

<テラ・スコラ>は卒業後の「行き先」よりも、自分らしい「生き方」に焦点を当てます。もちろん卒業後の進路先を決めることも大切です。

でも、卒業をして行き先を決めればそれで終わりではありません。

人生は思い通りにいかないものです。多くの挫折や失敗をとおして人は成長します。

そうであるなら「行き先」は大した問題ではありません。

何度挫けても、何度倒れても、それでも崩れないもの、守ってくれるもの。

「何のために生きるのか」「自分の存在にはどんな意味があるのか」「今の自分には何ができるのか」

それは、答えのないものを考え続けるということです。

テラ・スコラで身につけることができるのは、そんな考え続けるという態度を持った「新しい自分と出会い、自分らしい生き方を探求する」ということです。

<テラ・スコラ>が考える「生き方」の根底には、「共に受け容れ合い、共に尊重し合う」という〈共に在る〉があります。

この〈共に在る〉は「対話」によって紡がれていきます。

だから<テラ・スコラ>では、自分らしい生き方を探求し、〈共に在る〉社会の実現を目指して、「生き方」を含めた進路について対話を重ねるのです。